



# cafe time

## 子ども達の 森林遊びについて

### 思うこと

自然の中では決してケンカが起ころず  
どこまでも続く緑の中で  
のびのびと自分らしさを発揮してくれる子ども達。  
何かに規制されるのではなく  
自分をさらけ出しても受け入れてくれる  
安心できる環境がそこにあるのだと思います。

そんな自然の中にこれからも出掛け  
子ども達と共に、豊かな時間を過ごしていきたいと思っています。

ある札幌大谷第二幼稚園の先生が語った言葉。この言葉の中に、森林の中で活動することの大切さが全て集約されているように思う。森の中へ子ども達を連れていく立場の先生、そしてそこに子ども達を預ける保護者が、どんな気持ちで「自然遊び」を見ているのかを聞いた。

#### 子どもが 「んがいん」という幼稚園

● 実際に子ども達と接している、保護者の方と先生方として話していただきたいのですが、まずはこの幼稚園にお子さんを入園させた理由を聞かせてください。

C：こっちに越してきて、近所の幼稚園をいくつか見学したんですが、子どもが「ここがいい」と言っていたんですよ。

● へえ。お母さんとしては、この幼稚園は他とどう違うように感じましたか？

C：雰囲気は明るかったですよ。私はね、最初は他と比べると、狭かったんで、不安だったんですけど（笑）。後から聞いたら外にたくさん出るといって、安心したんですけど、入るときはそこまで知りませんでしたね。

● お子さんはこの幼稚園のどこが気に入ったのでしょうか。

C：うーん。ちよつと分からないなあ。  
D：うちの子もここがいいって言ったからここにしたんですけど、他に見に行った幼稚園は「やだ」と言ってますよね。「絶対ここに行く」と。でも何でなのかは分からないです。何を感じてこの幼稚園がいいって言ったのか。

● それは面白いですね。興味があります。

C：私が見たときは、とにかくここは元気が良かったですね。他の所は、お行儀はとも良いのだけど、あと、一見元気に見えるけど、作られてるっていうか、決められたことを元気にやらされているよ

うな感じが子どもに響いたのか分からないですけど、こっつてそういうのがないですよ（笑）。

D：「こう言ったらこうお返事するんですよ」というのがなくて、自然に「おはよう」と言ったら「おはよう」と返してくれるとか、初対面の人たちにも挨拶してくれたり、先生も子ども達も初めて会った私にも普通に話しかけてくれるみたいな感じでした。それが良かったのかどうか。

● なるほど。先生がしっかりコントロールしてしまっている元気がいいのとは違うんですね。面白い話を聞きました。

C：私の二人目の子は違う幼稚園に入れたんですけど、外遊びの規模はこと全然違っていて、先生の子どもへの接し方も違っていましたね。子どもは子どもだけで外でほったらかしになっていて、勝手に遊んでいるというふうには見えなかったですね。子どもも結局はじめなくて、だから転園させてしまいました。外で遊んでいる規模が全然違うということもそうだし、遊んでる先生も違うと思う。水遊びをしていて、先生方がびしゃびしゃになって遊ぶところってないんですよ（愛）。大人が楽しんでないのと子どもが本当に楽しめないんじゃないかな。って。● 自然な元気を表現できる子ども達なんです。誰にでも心を開くような子ども達を育てる土台はなんでしょう。先生方は

そのあたり、意識していらっしゃるんですか？

A: ー。ないですね。初めは、自分子ども達に何を伝えていけるんだろう。自分には伝えられる物が何も無いって不安だったんですけど、森に連れていくことで子ども達は自分で何かを発見してくんだったという事に気づいたんです。だから、できるだけ外に連れて行ってあげればみんな楽しむし、逆に子どもが気づいたことに私が気づかせてもらって、私も一緒に遊ばせてもらってるっていうのがあって、だから特に意識しているところはないかなー。

B: 自然に関する知識は何もなくて、でも自然の中に行くとか教えなくても、子どもと同じ発見をしったりとか、肩肘張らずに一緒に楽しめるんです。だから気負うものは何もなくて、むしろ子ども達に引張られている気がします。子ども達の発見の力はすごいですよね。色んなものを見つけて教えてくれます。その時それが何なのか分からなくても、園に帰って調べたり、年長さんになってから分かることがあったり。私に分からないから一緒に調べたりもします。

一年を通してそうやって自然の中で発見できるってすごいなと思いますよ。「これはどつしてこうなっているの?」っていうことも、自然と子ども達は答えを見つけていきます。その過程を私も一緒に楽しめる。だから答えを知らなくても、少しずつ分かっていくんだなって

う過程があるんです。だから私も楽な気持ちで付きあえる。

それと、色んな先生が言っているんですけど、ホントに外に出るとケン力がありません。そしてホントに協力するんです。お部屋ではスゴイやり合う子ども達も、森林や山に行くとなぜか協力するんです。そういう不思議な力を自然は持っている、すごく感動します。何でか分からないけど、だからこそ何度も連れて行きたいですね。

A: 来たばかりの子なんかは「おカーさーん」って泣くんですけど、どうにかして外に連れ出すと、泣きながらも松ぼっくり拾ったり、ベそかきながらポケットいっぱい木の実拾って「お母さんに見せるんだ」って。帰って来たらまたわーって泣くんですけど、二回目からはだんだん外に行くとか面白い物があるって分かるようになってくるみたいですね。

●森林や山は、お互いを気遣いあって、助け合う気持ちを生まれさせるんですかね。相互扶助みたいな精神がそういうところから生まれてくるのかも知れません。それと、きつと泣く子ども黙るくらいの発見があるのでしょうか。

じゃあ、お二人とも子どもに引張られて遊んでいるような感じなんですね。B: 大人同士で自然に行っても絶対この感覚はないだろうなと思います。子ども達は何を持っていなくても、自然の中から次から次へ遊びを発見して何時間でも遊べます。それと遅いですよ。顔がちよ



っとくらい切れたりしても、笹藪の中に入っ行って遊んだり、大人でも登れないような坂を、ササを頼りに登ったり。●遊びを創造する力があるっていうことですよね。何も無いところからでも何かを創造する力ですね。

C: 良く聞くのは、大谷第二幼稚園の子は何もなくても遊べるって。他の子は何かしらおもちゃがないと遊べないんだけど、この子たちは、棒でもなんでもあつたらそれで地面をほじくったり、何かを見つけたらして遊びを探し出すんです。何でも遊びに変えちゃうんですね。

D: 気づけるんですね。本人達は自覚してないけど、そこに面白い物があるって気づく目を持っているんだと思います。

C: 小学校三年生にあがつたうちの子が、「今日学校でキツキ見つけた。私が一番に見つけた」って喜んでいました。きつとそういう何かを見つけて認識するっていうことって、この幼稚園が一番伸ばせるんじゃないですか？

D: 虫でもなんでも見つけるのが早いよね。目が出来ているっていうか。親よりもずっと早いですよ。小学生になって色んな幼稚園を卒園した子が集まってる中でも、違う風に見えますね。

●僕も小学生に自然の観察をさせることがあつたんですけど、物を見つめる目を持たせることがまず大変ですよ。大抵の子は、外に行ってもそこに何かがあるんだよっていうことが初めは分からないです。子ども達は色んな事に関心を持ってようになつているのかな。感受性が豊かなんですね。環境教育的に言うと、幼児期には興味を持つ心、関心を持つ心を育てるために自然や生命と親しむことが必要とされていて、そのことは存分に果たされているっていう感じですね。それを先生方が意識せずに一緒に楽しんでいる姿が印象的です。

### 子どもと大人が共に楽しむこと

●ちなみにみなさんは小さい頃は外で遊んでいましたか？

C: 私は、小さい頃は田んぼで遊んでいましたね。本州出身なので、山は無かったですけど、田んぼで…

● じよっ子だのふなっ子だの捕ったりして遊んでいたんですか？

C：はい。カエルとか。

● それは今になって子どもにもそういう遊びをさせたいとか、そういう気持ちにつながっているんですか？

C：そうですね。私も大学行って働いている間に全然接することが無かったんですけど、この幼稚園で子ども達と外に連れて行ってもらうって、そこで本当に心から楽しめたんですね。そういう風にしていて、昔自分がおい、田圃のにおいなんですけど、それを感じながら遊んでいたことを思い出して、子どもの目線に戻って、子どもの立場で楽しめる雰囲気や山や森林にはありますね。この辺りの公園ではそれはできないですね。

● 一緒に楽しめるってすばらしいことですね。子どもに共感してあげられるって、「センス・オブ・ワンダー」にもそのことが書いてありますけど。

D：私は札幌育ちで、外で遊ぶのが好きだったことは覚えてるんですけど、今は子ども達と外に行くことで、昔外で気づけなかったこととか出来なかった遊びを今やらせてもらってるのかな。って思っ、園外保育の時に手伝いっていう名目で連れて行ってもらえるのが楽しいです。

● なるほど、自分が色んな発見があるっていうことですね？

D：私じゃなくて、子ども達が見つけた物を、私達に「こんなのあったよ」って見

せてくれるんです。子ども達が見つけた物を私達が教わるみたいな感じで。

● 発見を共有できるんですね。子ども達が発見する。それを受け止める大人達もいて、両方が同じ発見の喜びを共有できるって、素敵ですね。

(園長先生)：お母さん方は園外保育のボランティアで来てもらってるんですよ。外に行くときは、人手がたくさんあるっていうより、目がたくさんあると助かるんですよ。子ども達を見る目がね。最初のうちは頼んで来てもらってたんですけど、今は呼ばなくても、お母さん方から来てくれますね。

● それはすごい。お母さんも楽しめるって、なかなかその雰囲気は作れないですよ。園外保育の記録を読んでいて思ったのですが、子ども達の疑問に逐一答えてあげられる先生が出てきますよね。それは子ども達には大きな存在になっていると思うのですが、子どもの疑問に答える知識っていろいろの重要なんじゃないか。

C：あれは何？これは何？って、色んな事を知りたいっていうそういう時期なんだと思います。色んな事が不思議でしなくなると、それで自分が発見した物がなんなのかを受け止めてくれる人の存在は大切ですね。でもそれは知識とかではなくて、発見を共有するとか、発見したことを認めるっていうことで、自分が発見したという体験に、子どもはすごく興味を持つみたいで、体験したことは全然忘れないし、図鑑を買ってあげても自分が

見つけた物のことはよく調べるけど、それ以外の物は「ふーん」って見ているだけみたいです。

● なるほど。発見とそれを受け止めてあげる大人が重要なんですね。それこそが特別な体験になって自分の中に溜まっていくんですね。今までの話から、大人が一緒にいて、子どもの発見に共感してあげるとするのがキーワードのような気がします。



大人になって活きる  
原体験

● 昔の自然遊びが今、大人になってから役に立ってるとか、そういう部分でありますか？僕は小さい頃、池で遊んでいたときに蛆(うじ)の沸いたカモの死体を見ました。その時に生と死の事を認識したんです。そのころから命について、すごく考えるようになりました。

● そうい、今の人生につながっているようなことって、難しいかも知れないですけど。

A：私の実家は山の中なんですけど、小さい頃家の中にミンク(アメリカミンク。毛皮用として養殖していたものが逃げ出して野生化し、今は全道の河川に分布している)が入ってきて、網に引っかかってもがいていて、それが珍しいっていうので袋に入れて飼おうとしたんですけど、袋から逃げ出してしまっ、次の日朝起きたら、逃げたミンクが仲間を連れてこつちを見ていたっていう記憶がなぜかあって、それで幼心にミンクにも家族が有るんだなあ。って思っ、でも父は父で惜しかったなあ。って思っ、私は私で惜しい気持ちもあるし、朝には裏の山にはミンクみたいな動物がたくさん生きているんだ。って思うこともあって。それが今になって思い出すことがあって、そういう忘れてしまったことってたくさんあるんだけど、自然の中で感じた大事な事ってきつとどこかに残っていて、大きくなった時に思い出すんだろかなと思います。

● そうですね。小さい頃に経験したことが

脈々と生きて、今の自分の基礎になって  
いつているんですよね。子どもにはそう  
いう、人生の基礎になる色んな経験をし  
て欲しいと思いますか？

A：はい。思いますね。昔は自分が山に住  
んでいることがすごく嫌で、町に住みた  
いと思っていたんですけど、今になって  
そこに住んでいてよかったと思ってい  
るし、誇りですね。そこにも幼稚園がある  
んですけど、その幼稚園では全然山には  
行きませんね。かえって部屋の中で遊ぶ  
ことが多くて。

●なるほど、かえって周りにたくさんある  
と気づかないですよ。その面白さとか  
大切さとか。あるのが当たり前になっ  
ちゃうんですね。そういう意味で、自然の  
大切さを知っているこの幼稚園はすこ  
いですよね。

### 子どもに 舵を取らせることについて

●ところで、園外保育の記録を読ませてい  
ただいて、外に遊びに行くときとか、子  
どもに相談させて活動を進めるって良く  
やっていることなんですか？「今日は吹  
雪だけど、外に行く？」とか。そこにな  
にかねらいってあるんですか？

B：一応外に出たら歩くコースは決めてる  
んですけど、吹雪の日なんかは行きたい  
子もいれば行きたくない子もいて、じゃ  
あどうする？って聞きますね。やっぱり  
危ない時とか目的があって外に出ている  
ときは、それとなくこっちの思惑を伝



えたりするんですけど、基本的には子ど  
もに判断を任せる形を作っています。お  
部屋の中ではやっぱり話を聞いて欲しか  
ったりするから強く言うこともあります  
でも、自然の中に行ったら、優しくなり  
ませんか？(笑)。

C：なるなる！(笑)

B：ちよっと子どもの言うこと聞いちゃう  
って感じで。今日はこういう経験し  
てもらいたくないっていうのはあるけど、  
どうしてもっていうわけじゃないし。そ  
ういうところで色んな意見を聞いたり、  
そっちの道はどうなってるんだらうって  
想像したり、そうやっていくとやっぱり

こっちに行きたいよね。って行くとやっ  
ぱり私達も子ども達も楽しい。

A：何となく、何も話しかけていないけど、  
みんながこっちの道を選ぶような、そん  
なまとまった雰囲気の時もありますよ。  
でも、「あ、こっちの道はどうなってる  
の？」っていう時は、木の枝一本立てて、  
ちよっと自分の行きたい方向気味に倒し  
て(笑)みたり、もちろんどうするか話  
し合ったりして、みんなが納得するよう  
にしていますね。

●それで、子ども達が選んだ道に入ってい  
って失敗しちゃうことってないんです  
か？行き止まりとか。

A：ありますよ。

●そういうときって、どういう声のかけか  
たをするんですか？

A：この幼稚園に来たばかりの時、植物  
の名前聞かれたとき答えられなかった  
らどうしようって。でも、分からない物  
は分からないで、みんなで調べればい  
いんだって思えてからはそういう失敗を気  
にしないで良くなったんです。だから  
子ども達が選んだ道が行き止まりだっ  
たりしても、それは間違っていたという  
ことじゃなくて、色んな道があって、  
ここは行き止まりだったから別の道を行  
けばいいね。とか、それなら戻ればい  
かって、そうになったら楽しく歩けます。  
行き止まりでも、それが楽しかったりし  
ますよね(笑)。

●そういう、合意形成って言うんでしょ  
うか、話し合ってみるんで決めて、でも失  
敗しても、それがマイナスの方向ではな  
くて、いくつもある選択肢の一つに過ぎ  
ないから別の選択肢にチャレンジすれば  
いいよ。っていう、そういう感じなん  
ですね。自分に自信・自尊心を持つって、  
セルフエスティームっていわれているん  
ですけど、一度の失敗で立ち直れなくな  
ってしまっただけで引きこもってしまう人はそ  
の自尊心が足りないと言われていて、そ  
ういったものが最近の環境教育のキーワ  
ードになっています。

それと、これも園外保育の記録で読ん  
だんですけど、やっぱり子どもに相談さ  
せて、捕まえた魚を持ち帰って飼うとい  
うことになって、案の定持ち帰った魚が  
半分以上死んでしまっって、子ども達が落  
胆してしまっったということがあったと思  
うんですけど。

A：自分達が魚をどんどん捕れたことが嬉  
しくて、楽しく捕った魚だから、とても  
愛着が強かったんだと思います。でもそ  
の先のことを想像することは多分できな  
くて、一生懸命かわいがるからどうして  
も持つて帰りたい。っていうことになっ  
て、先生方で相談して決めたんですけど、  
みんなとても気にしていたし、次の日の  
朝は一番に水槽に駆け寄ってどうなっ  
たかなって心配していたんですけど、やっ  
ぱり三分の二くらい死んでしまっってい  
ましたね。その姿はものすごく衝撃で、子  
ども達はすごくショックを受けていまし

たね。先生が何も言わなくても、子ども達から生き残った魚を逃がして欲しいって言い出しました。私がどんなに考えて話す命の話よりも、命の事が分かったと思います。

● やっぱり自分の体験として命に触れたからですよ。自分の手の中で命が消えていった感触を知っている事って、生と死を理解する上で絶対に必要なものだと思います。魚が死んでしまうだろうという予想はある程度あったと思うのですが、それを押し切って命を教える方向に持っていたのはすごいと思います。

A：昨日元気がだった魚が今日死んでしまっ  
て、それは何故なのかって考える子ども  
もいましたね。水の温度なんじゃないか  
水道水のせいなんじゃないかって。

● 科学的な見地で分析したい気持ちもあつ  
たんですね。それがこの失敗を繰り返さ  
ないことにもつながるって、意識はしな  
かったのでしょうか。そういうことを  
一番良い形で気づかせてあげられた出来  
事だと思つてすごく感動したんですけど、  
そういうことをしてあげられる幼稚園の  
先生も、大人も、すごく少ないと思いま  
す。川の魚を捕ることも虫を捕ることも  
捕った生き物を飼うことも許さない大人  
が多いですよ。外に出て自然に触れる  
活動をたくさんやるからこそ、そういう  
命に触れる大切な機会をたくさん持てる  
んだと思います。



### 子どもに 伝えたい思い

● 特に外に子どもを出すことで意識して伝  
えたいことありますか？

B：んー。私みたいに、小さい頃に野山で  
遊んでいなくて、マンシヨン育ちだった  
から自然の中で遊んだ経験が少なくて、  
今自然の中で活動していて、もつと昔か  
ら森林でこういう経験をしたかったって  
いう思いがあるから、だから子ども達に  
はたくさん自然の中で遊んで欲しいと思  
っています。今、子ども達と一緒に自然

の中を歩いて、子ども達と一緒に色んな  
発見をして、すごく良い時間を過ごさせ  
ていただいているんですけど、私、この  
幼稚園で働いていなかったら自然の事に  
興味を持つこともないし、季節が来たか  
ら、「あ、あの花が咲いたな」とか、  
そういうことを感じる心が持てなかつた  
と思うんです。でもそれはとても寂しい  
ことだなんて思うから、だからこそ、小  
さい子達をいっぱい連れて行って、何を  
教えるっていうわけじゃないけど、色ん  
なことを経験して欲しいなって、すごく  
それは思います。

● Aさん、いかがですか？

A：目を見張ったり、臭いに集中するって  
いうことが、普段はそういう機会がない  
のを、自然の中では存分にそういうこと  
ができるんだけど、意識してそういうこ  
とをするんじゃないかって、自然とそうい  
うことが行くって言うか。自然の中で  
色んな感覚を使って欲しいですし、自然  
はそれができるところだなあって。ほん  
とにありがとうっていう感じですね。子  
ども達と一緒にいる自分も、何かを見つ  
けようって言う目だけの自分じゃないっ  
ていうことにすごく気づかされたりして  
子どもだけじゃなくて一緒にいる大人が  
子どもの発見と一緒に、成長できるよう  
な、そんなことがたくさんやってけれ  
らな。って思います。

● お母さん方は、外に行くことで子どもに  
どんな大人になって欲しいとか、そうい  
う希望はありますか？

D：五感というけれど、六感まで育つよう  
な、人に言われて気づくのではなくて、  
自分で気づいて、自分で考えて行動して  
いけるような、そういう感覚を与えても  
らなければいかなー。って。自然の中  
に行く心が解放されるような感覚がある  
と思うので、そういう六感までも型から  
はみ出て、広がっていくような、人の心  
でも季節のこともいいんですけど、そ  
ういうものに気づいていけるような子に  
なってほしいなと思います。

C：山に行くときには、それぞれみんなが  
協力しないと登れないんですよ。引つ  
張ったりお尻を押しあげたり、生きて  
いくためには協力し合わないといけない  
っていうことが分かったんじゃないかな  
と思つて。自然ももちろん知って欲しい  
けど、人間が助け合つて生きているって  
いうことも、自然と人間が助け合つてい  
るといふことも、そういうことも知って  
いる人になってほしいなと思います。

● 仲間を認識する事って、社会に入る最初  
の一步ですよ。みなさんの話や園長先  
生の話を聞いて、この幼稚園でやってい  
ることって、社会で必要なことが全部入  
っているように思えます。今のうちから  
そういう事を知っている子が社会に増え  
ると、色んな社会問題が解決する気がし  
ます。

## 幼稚園として 必要なこと

●ところで、ここでやっていることって、他の幼稚園でもできると思えますか？できるとしたら何が必要なんでしょうね。

A：園の特色だったり考え方だったりで、カリキュラムややり方が違うと思うんですけど、一週間に一回だったりする外出を二回にしたり、近くの公園をちよっと遠出して向こうの森にしたり、そういうことが少しずつでも増えて、自然の中で遊ぶ子ども達の表情に気づいて、子どもにとってこういうことが大切なんだなって園が思えば、それを広げていけるんじゃないかな。子ども達に大事だと思える事を、それぞれの幼稚園がやっているのだからその部分が自然だって言うことになれば良いんですけど。

●園の管理者とか、先生がそのことに気づくことがまず始めなんでしょうか。大人が子どもの楽しむ姿に気づくことって、とても本来的に必要なと思うけど意外にできていないかもしれないですね。

D：他の幼稚園を見たときに気づいたんですけど、この幼稚園と同じ事をやっているけど、この幼稚園と同じ事をやっているけど、先生方が本当にこれをやるが良いと思ってるっていいか、本当に子ども達のために良いと思ってるからやっているか、見た目に出してしまうし、子ども達も感じると思います。だから、先生方が、

本当に良いと思えることがまず最初だと思いますよ。

●なるほど、まさに伝える側が自然の中で遊ぶことの面白さとか、重要性を知っていなきゃいけないということですね。管理者と先生が気づけば、それが園として活動を取り上げていくことにつながりますね。大切なのは、森林での様々な発見や学びに大人が共感する環境を作ることのように感じます。

### 人を傷つけない 自分を認めてあげられる子

●最後に、自分達の子どもが、こんな遊びを通じてどんな大人になってほしいかありますか？

C：すごく基本的なんですけど、人を傷つけない子ども。勉強云々よりも人のものを盗んだり、傷つけたりしなければ。それと自分を傷つけない。まずそれが最低の目標です。

D：人の気持ちを大事にしてほしいですね。人の気持ちを分かること。人は自分だけでは生きていけないんだよ。って。これをしてしまったら相手の人はどう思うかなあって、気づく人になってほしいですね。それが一番基本なんですけど、欲を言えばきりがないんですよ（笑）。

●先生方としてはありますか？指導者として、将来この子をこんな風にしたいたか。  
A：こういう色んなことを体験するなかで、初めはやっぱ失敗ばかりなんですけどね。でも、失敗して「ああ、僕だめなんだ」

って思わないで、自分を信じてあげる子に育てたいと思います。みんなが同じペースで育つわけじゃないし、それぞれ得意なことが違うけど、それが悪い訳じゃない。くじけちゃっても、自分のペースで大丈夫だよ。っていうことが伝えられたいかな。いつも近くで励ましてあげられる人がいればいいけど、そういうわけにいかないから、いつかは自分で自分を励まして、自分を認めてあげる。

B：ひとそれぞれペースが違うっていう話が出たんですけど、その通りで、やっぱり子どもによってみんな違うから、一つでも自分の得意なものがあったり、自信のあるものがあれば、それは支えになるよね。って思います。人生で強い支えになるし、人を認めることもできるんじゃないかな。ああ、この人はこんなことができるんだ。すごいな。って。そういう部分は持っていてほしいな。その子自身も他の人も認めてあげる気持ちのある人になってほしいですね。

●森林はそういうものを育てる場ですか？  
A：そう思います。



インタビュー：2005年3月 於 札幌大谷第二幼稚園職員室  
聞き手：檜山知弘（NPO法人ねおす）  
話し手：A,Bさん 札幌大谷第二幼稚園教員  
C,Dさん 札幌大谷第二幼稚園園児の保護者

※本文中では、便宜上保護者の色と指導者の色を分けました。